

駿河ほねほね団活動報告

本多佐おり



解剖室での作業



ナイルモニター

2013年初冬に、私が初めて駿河ほねほね団と出会ってから、早いものでもう8年の月日が流れました。当時はまだ清水区に静岡県自然史博物館ネットワークの事務所があった頃で、ほねほね団もそこで活動をしていました。「何か面白そうな事をしている人達がいる」という噂を聞き、面白そうだから一度見学させてもらおうと、軽い気持ちで門を叩いたのですが、当時のメンバーに、まるで旧知の友のように暖かく迎えていただき、その場ですぐ入団が決まりました。研究者やそれ相応の知識のある人間でなければ活動には参加できないと思っていた、本当に「少し覗くだけ」のつもりで訪問したので、嬉しい反面、最初の頃は何をすることも緊張の連続でした。

活動拠点が現在のふじのくに地球環境史ミュージアムに移ってからは、団員の数も増え現在では20名以上が名簿に名を連ねています。活動にはミュージアムの解剖室を使わせていただけなので、私の入団当初と比べると作業もずっとやりやすくなりました。去年から、さらにもう1つ作業室が使えるようになり、製作途中の標本を一時的に保管したり道具類を置いたりする場所も増えました。また、作業場所が増えたおかげで、このコロナ禍でも密を避け活動する事ができています。

これまで駿河ほねほね団では様々な活動をしてきましたが、日本平動物園のイベントに参加したり、静岡科学技術高校に出向いて生徒さん達と一緒に解剖をしたり、3Dデータを取るため1つの骨の周りを集団で取り囲んで撮影したり、どれを取っても思い出深いです。取り扱っ

た動物も多種に渡り、中でも強く記憶に残っているのは、液体化した内臓が開腹と同時にこぼれ出すほど腐敗していた、解剖台目一杯サイズの巨大なナイルモニターです。自分にとって初めての爬虫類でしたが、平べったい頭蓋骨と細長い舌骨が、とても刺激的な匂いと共に強烈に脳裏に焼き付いています。初めて全て一人で担当したコウベモグラも印象深い動物の1つです。普段、部位ごとに分けて複数の団員で協力して作業する事が多いですが、コウベモグラは最初の計測から最終的に標本箱に入れるまでを、全て一人で作業しました。駿河ほねほね団では、団長の佐々木氏の指導の元『分解整列式骨格標本』という、骨を組み立てずに一つ一つ見やすい形で箱に入れて保管する独自の標本作成を行っており、この時のコウベモグラもその形式で標本にしました。米粒ほどの手根骨を一つずつ箱に納めていく作業には苦労しましたが、モグラの骨格は非常に興味深く面白い経験でした。

この2年程の間ではヤマネ・アライグマ・ハクビシンなどの標本製作に携わりました。ほねほね団の活動は月に1回なので、どうしても作業の進展が遅れがちですが、最近では茹でて水に浸けるなど、効率の良い方法も模索中です。

ここ数年で多少の団員の入れ替わりはありましたが「一度見学するだけ」のつもりで来た人を即仲間にする気風は私が入団した頃からずっと変わりません。これからも、色々な人や色々な動物との出会いを楽しみに活動を続けていきたいと思っています。